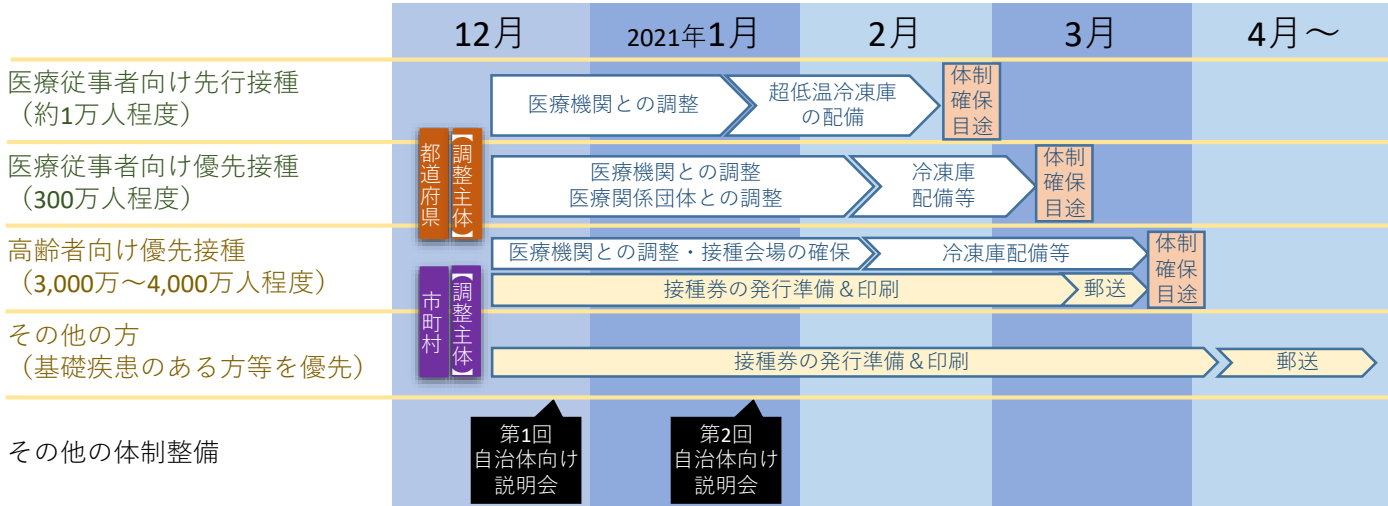


ワクチン接種に向けた準備状況について

1 現在国から示されている基本情報 ※国説明会資料より抜粋・作成

新型コロナウイルスワクチンの接種体制の構築（スケジュールのイメージ）

○ワクチンが承認された場合に速やかに接種が可能となるよう、ワクチン接種の優先順位を踏まえ、都道府県、市町村と連携して、接種体制を整える



※優先順位は検討中の案に基づく

医療従事者等接種の概要

- 感染リスク及び医療提供体制の確保の観点から、医療従事者等を接種順位の上位として接種を実施
- 医療従事者への接種体制は、都道府県が調整し、医療関係団体や医療機関が協力して確保

対象者

- ・ 感染リスク及び医療提供体制の確保の観点から、以下を対象として実施。対象者計370万人
- ・ 病院・診療所・薬局や、自治体等の新型コロナウイルス感染症対策業務で、新型コロナウイルス感染症患者・疑い患者に頻繁に接する業務を行う職員
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者・疑い患者を搬送する救急隊員等、海上保安庁職員、自衛隊職員

接種場所

- ・ 全国で150か所の施設に、2月末までにディープフリーザーを配置
- ・ ディープフリーザーを配置した施設を拠点（基本型施設）として接種を実施するほか、ワクチンを冷蔵で近隣の医療機関等（連携型施設）に移送して接種を実施
- ・ 基本型施設では、1か所100人以上、連携型施設では1か所100人以上の接種を想定

先行接種者健康状況調査

- ・ 上記に先行して、1万人程度の医療従事者に対して先行的に接種を行うとともに、接種後の健康状況を調査
- ・ 接種後に、症状の有無にかかわらず、健康状況を調査し、接種後の様々な症状の発生頻度などを早期に集計して情報提供
- ・ 国が研究班を設置して、調査のために依頼する特定の医療機関で実施

※国では独立行政法人が設置する全国100病院を、医療従事者向け先行接種の実施医療機関として決定しており、宮城県内では（独法）国立病院機構仙台医療センター、（独法）地域医療機能推進機構仙台病院及び仙台南病院、（独法）労働者健康安全機構東北労災病院の4か所が決定されている（1月20日付け厚生労働省事務連絡）

ファイザーのワクチンの小分けに関する条件と移送方法について



サテライト型接種施設とは

- ・ 住民への接種に当たり、基本型施設1か所につき3か所程度（基本型施設と併せて人口5,000人に1か所程度）を上限として設置し、基本型施設から冷蔵で移送し、ワクチンを有効な期間内に接種する
- ・ 高齢者施設入所者や、離島・僻地での接種に必要な場合、上記の上限数を超えて、サテライト型接種施設を設置できる

	ファイザー社	アストラゼネカ社	武田／モデルナ社
規模	1.2億回分 (6千万人×2回接種)	1.2億回分 (2回接種が想定されており、 その場合6千万人分に相当)	5千万回分 (2千5百万人×2回接種)
接種回数	2回（21日間隔）	2回（28日間隔）	2回（28日間隔）
保管温度	-75℃±15℃	2～8℃	-20℃±5℃
1バイアルの単位	6回分/バイアル	10回分/バイアル	10回分/バイアル
最小流通単位 (一度に接種会場に配送される最小の数量)	195バイアル (1170回接種分)	10バイアル（100回接種分） ※供給当初300万バイアル分 2バイアル（20回接種分） ※残り900万バイアル分	10バイアル (100回接種分)
バイアル開封後の保存条件 (温度、保存可能な期間)	(室温で融解後、接種前に生理食塩液で希釈) 希釈後、室温で6時間	(一度針をさしたものの以降) 室温で6時間 2～8℃で48時間 希釈不要	(一度針をさしたものの以降) 2～25℃で6時間（解凍後の再凍結は不可） 希釈不要
備考	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関では、ドライアイス又は超低温冷凍庫で保管 ※医療機関でのドライアイス保管は10日程度が限度 →10日で1170回の接種が必要 ※最大5日間追加での冷蔵保管可（2～8℃） 		<ul style="list-style-type: none"> 医療機関では冷凍庫で保管（-20℃±5℃）

2 県内での接種体制構築の状況

- 県では、国から示されている接種体制構築スケジュールに基づき準備を進めるため、優先接種対象となる医療従事者等の接種体制構築について、医療関係団体等に接種対象者数の把握及び接種体制の構築に向けた検討を依頼し、準備を進めている
- また、市町村が主体となって調整を進める住民への接種体制構築に関し、接種会場に設置するワクチン保管用ディープフリーザー（超低温冷凍庫）について、国から配分案が示され、市町村及び地域の医療関係団体において、接種計画を踏まえた配置場所の検討が進められており、県でも体制構築に向けた調整を行っている
- 現時点において、国内での新型コロナウイルスワクチンの製造販売承認がなされていない状況であり、ワクチンの供給時期、供給量、また特性や副反応の詳細等の情報が国から示されていないため、接種開始時期や実施規模が想定できない状況であるが、承認された際に速やかに対応できるよう、接種体制の整備を進める

<これまでの経緯>

- 12月18日 国による自治体向け説明会（第1回）
- 1月4日 超低温冷凍庫配置計画を市町村に照会
- 1月13日 郡市医師会長会議で接種体制構築について説明・協力依頼
- 1月14日 市町村担当者会議で接種体制構築について説明

<今後の予定>

- 1月28日 超低温冷凍庫配置計画を国に報告
- 2月中旬～超低温冷凍庫の設置開始（予定）